

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立沼南高等学校	校長氏名	山垣内 俊行	生徒指導主事氏名	櫻田 隆紀
-----	------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『平成 27 年度 沼南祭・体育祭』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の醸成・挨拶の徹底』

「沼南生」としての自覚を持ち，集団の中でのルールを守り，規律ある集団行動や他者を尊重する態度を育てる。さわやかに挨拶できる沼南高校生となる。

取組の具体的内容『キーワード 自己存在感を確認する』

「とり戻せ！！プライド」

6月の沼南祭（文化祭）では，家政科は，3年間の集大成としてファッションショーを実施した。ファッションショーは家政科の下級生が憧れる。そうして，目標とプライドが引き継がれていく。園芸デザイン科3年生は4つの研究班がそれぞれステージ発表を行った。普通科は，1年生が「桃太郎」の劇を英語で発表した。普通科3年生がとても羨ましく見ていた。小・中学校の時に経験させてもらえなかった事にチャレンジさせ，鍛え，達成感を味あわせ，力と自信をつけさせる指導を行った。



10月の体育祭は，昨年までは，生徒会行事であったものを，今年度から学校行事として位置づけ，教職員ともども学校全体で取り組んできた。生徒の日々の成長した姿，そして一生懸命がんばる姿を，保護者や地域の皆さんの是非見ていただきたいという思いで取り組んできた。そうした取り組みのなか，生徒は各競技で一生懸命体を動かし，持てる力を十分に発揮した。入場行進やソーラン節は，昨年度からの行事であるが，今年はさらに進化して充実したものになった。これから本校の体育祭の伝統となっていくものと確信している。



取組の課題・創意工夫『キーワード 声を出して自己アピールする，他者を承認する』

最初に「集合・整列」「行進」「挨拶」で声を出す。
各集会や授業の始まりで，心を一つにした挨拶を行っていく。

取組の成果（効果）『キーワード 自己の所属の確認と他者の承認』

体育祭で印象に残る場面があった。午前の競技が終わり，全校生徒がグラウンドに整列し，諸注意を聞いた後，全体での最後の号令があった。今年から，授業の開始と終わり，そして全校集会等で，「1，2，3，4，5」のタイミングで深く挨拶を行うことを徹底してきた。この場面でも，生徒は，いつものように号令の合図で，深々と整った挨拶を行うことができた。そのとき，保護者席から自然発生的に大きな拍手がわき上がった。保護者や地域の方々から，生徒のみならず教職員も大きな達成感をいただくことができた。



今後の展開『キーワード 学習規律（授業の号令）の定着』

授業での号令を各学年で取り組み，全学年で徹底していく。
授業はもちろん，教育活動のあらゆる場面でしっかりした号令・挨拶をさらに定着させていく。

他校へのアドバイス『キーワード 自己達成感，成功体験の積み重ね』

生徒自らが表現する場を意図的につくっていくことで成功体験を積み重ね，自己肯定感を高めていく。
これは「学びの変革」の取組が目指すところと同じである。
ただ，個人ではなく，学校組織としてこれらの取組を進めていくためには，教職員が一つのチームとならなければその効果が望めない。生徒指導主事のリーダーシップのもと教職員間でしっかり議論して，指導に関するフロントをそろえていくことが大切である。